

H29年度 看護学科セミナー「基礎教育講座」

初学者ゼミの取り組みと そこから学んだこと

I 初学者ゼミの取り組みとその経緯

《参考資料》

澤田忠幸ほか（2010）愛媛県立医療技術大学における初年次教育の取り組みと課題、本学紀要 第7巻 p29-35

MOST 京都大学高等教育研究開発推進センター

<https://most-keep.jp/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=92178115148263>

初学者ゼミ 愛媛県立医療技術大学 で検索

大学初代カリキュラム (旧カリ：H16～H20) 策定

短大一般教養科教員
として当初関与

- 4年制化
- **大学生**(らしさ、になる)とは？
- 全国的に「初年次教育」のはしり

8人(9人)

- 「教養ゼミ」：少人数初年次教育ゼミ
 - 基礎教育講座6名+両学科各2名⇒10グループ
 - 他に関連するとすれば、日本語表現法、情報科学

大学初代カリキュラム (旧カリ：H16～H20)

- 「教養ゼミ」：少人数初年次教育ゼミ
 - 新書の輪読をもとに学問研究の基礎的
態度とアカデミック・スキル修得を
目指す 《1年後期開講》
 - 基礎的文献購読と創造型学習の側面
 - 学生相互の議論 ⇒研究発表会

アカデミック・スキル修得を
15コマで、専門の異なる教員個々が取り組むには限界あり

大学2-3代目カリキュラム (21カリ、24カリ：H21～)

アカデミック・スキル修得を15コマで、専門
の異なる教員個々が取り組むには限界あり

- 1年間を通じた初年時教育プログラムの
充実化 ←前期と後期で異なるアプローチ
- 「初学者ゼミ」 ←general approach
 - 学生自ら体験を通じて学び、アクティブラナーへの
転化を図る
- 「基礎ゼミ」 ←infusion approach
 - 一つのテーマについて「協同学習」を通じて学問
探究の基礎的態度とアカデミック・スキルを磨く

学ぶ力 + 考える力 + 問う力 → つなげる力

「初学者ゼミ」の取り組み 《授業内容》 詳しくはシラバス参照

- 第1－3回：「学生相互のコミュニケーション」と「大学での学習環境への適応」に重点
- 第4－7回：「ノートの取り方」や「テキストの読み方」を通して、能動的な情報収集力の育成を目指す
- 第8－15回：「協同学習という学び」「ディスカッション」「レポートの書き方」等を通して、論理的思考力や批判的思考力の修得を目指す

5

「初学者ゼミ」の取り組み 《特徴・しかけ》

- 毎回ワークを取り入れながら「体験とふり返し」を通じてアカデミック・スキル修得することを目的とする
- 毎回出席カードの提出を求め、記述された感想や意見と教員のコメントをA4判4-6枚程度に編集した授業通信「週刊フレッシューズ」を発行している。
- テーマごとのオムニバスであるが、教員はできる限り参加する。また学内教員に公開。

6

「初学者ゼミ」の取り組み 《学びのコンセプト》

- 大学で学ぶ基礎的学習態度とアカデミック・スキルを、学生自ら体験を通して学ぶ
 - 大学生活への適応面や個別学習スキルの修得（ex PC操作）自体よりも、全体を通して「考える力」「判断する力」「問う力」「つなげる力」を体験（学習活動）を通じて学生相互に学びあうという点に重点が置かれている

7

「初学者ゼミ」の取り組み 《学びのコンセプト》

- 常に複眼的な観点を意識し、「正解」を求めるのではなく「最適解」を探す
 - 医療人としてのみならず、社会人として求められる学士力・社会人基礎力という視点、学生相互の視点および教員の視点といった複眼的視点を常に提示し、多様性の中で根拠に基づき最適解を見つけることの重要性を強調している。

8

Ⅱ 初学者ゼミから学んだこと

今日の話

- 学んだこと・感じたこと
- どのように授業が行われているか (具体的な授業の仕組み)

第6回 要約の仕方

- ①内容本意でまとめる
- ②要約の仕方

初学者ゼミ

担当教員	草薙康城、脇坂浩之、鳥居順子、仲渡江美、内藤真帆、金澤知典
授業概要	主体的な学習者 (active learner) として、大学で学ぶための基本的な学習スキル (スタディ・スキル) や学習態度の修得を、具体的な演習 (グループワーク) を通じて修得する。
授業目標	大学生として、そして将来社会人として求められる「能動的な情報収集力」や「論理的思考力」、「批判的思考力 (クリティカル・シンキング) 」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。

回	項目	内容	担当
1.	大学で「学ぶ」こと、この授業の目標とタスク。	①担当教員の紹介、 ②この授業の学習目標を伝える体験ワーク (PW) 。	担当教員
2.	大学を知ろう (1) 、「部活」の思い出をもう。	①大学生活を思い浮かべてみて思い出を共有 (GW) 。 ②大学で「学ぶ」ための心構えを知ろう。	鳥居順子
3.	大学を知ろう (2) 、「教員とのつき合い方」。	①教員とのかかわり方 「メールの出し方」、「オフィスアワーの使い方」 (PW) ②キャンパス・ハラスメント、③タイム・マネージメントをしてみよう (HW) 。	内藤真帆
4.	ノートの取り方 (1) 。	①授業スライドに沿ってノート・テイキング: 3つのタイプ (図書館、ハンドアウト中心、テキスト中心) の授業体験ワーク。 ②社会人・医療職者として求められる力とは？。	内藤真帆
5.	ノートの取り方 (2) 。	①役に立つノートとは？ 役に立つノートの作り方。 ②授業スライドに沿ってノート・テイキング: パワーポイント中心と講義内容の整理体験ワーク。	内藤真帆
6.	テキストの読み方 (1) 。	①大事で求められる「読み」のレベルとは？。 ②論理展開の「ターン」練習ワーク (PW) 。 ③読解課題 (HW) 。	脇坂浩之
7.	テキストの読み方 (2) 。	①読むべきテキストを探し方 ②情報の利用の仕方、③要約のしかた (PWW-A&S) ④演習課題 (HW) 。	脇坂浩之
8.	協同学習という学びの方法。	①協同学習の仕組みと効果 (PW+GW) ②協同学習を有効に行うために: アサーション (PW) 。	草薙康城
9.	きちんと考える方法 (1) 。	①事実と意見を区別する (PW) ②クリティカル・シンキングを体験しよう (PW) 。	草薙康城
10.	きちんと考える方法 (2) 。	精選立てて考える (3 教員に分かれてのGW) ④ブレインストーミング ⑤「なぜ」の連鎖。	担当教員
11.	きちんと考える方法 (3) 。	精選立てて考える (3 教員に分かれてのGW) ④クロスロード「誰の安全」編。	担当教員 (3 教員に分かれて実施)
12.	きちんと考える方法 (4) 。	視点を変えて考える (3 教員に分かれてのGW) ④ディスカッションを通して、視点を抽出し、理解を深める。	担当教員
13.	レポート・論文の書き方 (1) 。	《基本編》①「論文」とレポートの違い (PW) ②引用の仕方、事実と意見の書き分け、③いろいろなレポートのタイプ。	仲渡江美
14.	レポート・論文の書き方 (2) 。	④内容編 ⑤課題の要求する内容を理解する、構図に基づき論を展開する。⑥図解・編集・教育に関するレポート (HW) 。	仲渡江美
15.	レポート・論文の書き方 (3) 。	⑦よいレポートとは？ (PWW-A&S) ⑧条件のふり分け。	担当教員

出席カードから

初学者ゼミを受講して、この大学に入って本当に良かったと思いました。

この授業を受けて、後輩にLINEで医療技術大学を受験するようにアドバイスをしました。

高校では授業をすわって聞いているだけでつまらなかったのですが、大学ではとても楽しく、「楽しい」と思っている自分にびっくりしています。

各回共通アイテム・仕掛け

- 進行表 (A4横)
- 出席カード (A4縦 両面)
(兼レジュメ・ワークシート)
 - 今日の予定と目標
 - ワークの記載欄 (気づきを含む)
 - 感想・意見・質問の記載欄
- パワーポイントでの進行
 - # パワーポイントは原則配布しない
重要部分や補足資料は適宜配布

• 教員用

13

第13回 (レポート・論文の書き方1) 出席カードより

01

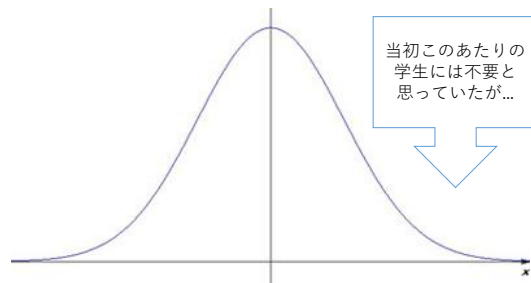
今日までに、医療概論と看護学概論のレポート課題がだされていたんですが、それより前にやってほしかったです。

02

今日のレポートの書き方をもう少し早めにしてほしかった。もうすでに3つのレポートを出してしまっていて「あ！これを知っていれば！」と思うことが多々ありました。

14

初学者ゼミの効果



リテラシー and/ or コンピテンシーの観点からするとそうとも言えない

15

第2回の出席カードから

今週の週刊『フレッシュャーズ』を読んで、考えたことや感じたことを書いてください。

前回の授業の感想は前回書いていますが、更に何を書けば良いのですか？

16

グループワーク

今まで、「勉強とは孤独なもので、本来1人でするものだ」と度々言われてきて、グループワークの必要性が分からなくて、みんなで学習することにわずらわしさを感じていた。

高校の時に先生に当てられて答えるときに、先生が求める答えじゃないと、その答えを言うまで解放してくれませんでした。なので、自分で考えたことを言うという事を、無意識にやめてしまいます。

今まで、ディスカッションなどが苦手で、あまり自分から進んでやることはなかった。

17

グループ・ワーク



18

グループワーク

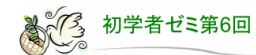
今回が初学者ゼミの1回目の授業でしたが自分の周りの人たちのそれぞれ違った考えを聞くことができ面白かったし、これからそのようないろんな考え、発想力をもつ人々とともに学ぶにあたり、自分も周りの人々の考え、発想力などを取り入れながら人間的に成長していきたいです。

自分だけでは考えが偏ったり、たくさんの考えを思いつかなかったりするけれども、グループで話し合うことで自分が全く思いつかなかった考えを聞くことができ、視野が広がるのだと思いました。

グループの人たちに「すごいね。その考えなかったなあ」と言ってもらえたとき、うれしかったです。

19

ある回を例にして紹介



初学者ゼミ第6回

要約のしかた
: 内容本意でまとめる

《配布資料》

- ・出席カード（兼レジュメ・ワークシート）
- ・アドバイスシート
- ・宿題シート（前回配布）

20

第6回の宿題

教科書の「導入教育/初年次教育の展開」の内容を、300字以内で要約する。

教科書の第4講 要約のところを読まずに要約を作成し、要約作成後、教科書の第4講（要約）のところを予習する。

21

座席配置の指示の仕掛け

- 通常の指示パターン
 - なるべく知らない学生とペアになるように
- この回の指示パターン
 - 知っている緊張感の少ない人とペアになるように

配布資料(3種) & 返却物は、後ろにあります

配布物・返却物は後ろにあります。取って前の座席から座ってください。

宿題とそのコピーを持ってきた人同士（同じ学科の人同士もOK）でペアを作って、前の方から座ってください。

宿題を忘れた人は教室の後ろの方に座ってください。

遅刻者席

22

今日のペア・ワーク

1. 自己紹介と予習(第4講)についての自己申告 (60秒×2)
2. 前回の授業で取り上げた論理展開の三つのタイプについて、重要ポイントは何か (60秒×2)

今日のペア・ワーク

3. 宿題を確認する。
第4講を読まずに作成した要約について第4講を読んだ後に感じた反省や考察について意見交換

(5分)

23

今日の目標と内容

- 要約の基礎は内容理解(←前回の授業と関連)
内容把握・論理構成をつかむ技術
→「書く」場合にも応用が可能
- 要約は、元の文章から各段落ごとの文を抜粋することではない。
→内容本意でまとめるためにも内容理解が重要!
- 要約のテクニックは、社会人としても必要な技術
→情報収集・情報の取捨選択・情報発信

- なぜ要約するのか？
- 例を出してのミニレクチャー

24

